

見る静原の自然

2 師走 1 睦月

は、稲藁を利用した作
す方々も見受けま
す。時にじん・大根・白
月用の野菜を取り込み

老人会を中心に正月飾
太いしめ縄を数人組
で。



- 年初めには、まず静原神社にお参りし、「五穀豊穡」と「家内安全」をお願いしてから、となりの阿弥陀寺へも新年のご挨拶と先祖へのお参りをされる方が多く見られます。
- 今年の作付け計画や種籾、資材、機械類の整備等の計画を立てます。

二十四節気とは、農作業を正確におこなうために、季節感を正しく把握する目的でつくられたものです。簡単にいうと、二十四節気の立春、立夏、立秋、立冬の四立を「四季」の始まりとし、一太陽年の長さを二十四等分したものです。

- 農作業
- 動植物
- 伝統行事

2 如月

- 日増しに日射が高く感じられる「立春」の頃、畑作物の手入れや、残滓の片付け、水田の耕耘作業にとりかかります。

3 弥生

- 田畑の水路、土手などの手入れが本格化します。
- 四方の山々に「コブシ」の白い花が咲き始める頃になると、各農家の庭先に早苗作りのための育苗機が並びだします。(最近では機械による田植えの為、苗代田は見られなくなった)

4 卯月

- 4月10日の「烏帽子儀」の頃、水田への用排水路や頭首口の共同手入れ作業が日を決めて、一斉に行われます。
- 市街地より少し遅れて桜が里のあちこちに咲き始めると、村が急に活気づきます。

5 皐月

- ゴールデンウィーク中に田植えをするとところが多く、5月3日の神社の祭りの準備等で前日はごった返します。
- 田植えを終えた田んぼに満月が影を落とす頃に、蛙の合唱が聴こえてくる光景は、一幅の墨絵を見ているようで、一見の価値があります。

水無月

- 田植えが終わると、待っていたかのようにシカが現れ、植えた早苗を食べるため、近年では早々に防護用の電気柵等の設置をするのが追加作業になりました。
- 最近では静原の「芋掘り(サツマイモ)」が盛んになり、その植え付けがピークを迎えます。(梅雨の前に作業を終える必要がある)

- 旧暦での端午の節句でチマキを作る家は、匂いショウブとヨモギを、屋根の上へ盛り上げたり、頭に鉢巻きをしたり、風呂に入れたり、そんな姿を今でも見受けられます。
- 梅雨の前後にホテルが乱舞します。

静原と農

私たち農家が、高価な機械に見合うだけの収入が期待できないことを承知しながら、稲作を続ける訳を知りたいと思いませんか？

この地で育ち、この環境で百姓をしてきた方々の心の底には、郷土を愛し、自然を愛してやまない、土地を守ろうとする気概すら感じとれます。最近になって声高に叫ばれた環境に対する考えは、昔から受け継がれてきている行いの中に、自覚しながら育まれていたのだと思います。農に対するリスペクト(尊敬念)が今も生き続けているのではないのでしょうか。

静原では、稲作は早稲種が主である為、9月に入れば収穫作業が始まります。暑い天気での作業になることがあります。以前は6月田植え、10月稲刈りでしたが、機械化と兼業化で、相対的に早くなったようです。機械化以前は、春の田植え、秋の収穫時は「結(ゆい)」という共同助け合い作業が盛んに行われていました。秋の取り入れは、機械化が進んだとはいえ、雨天は作業できないというデメリットもあります。

旬のものを旬の時期に、新鮮な農作物を時間を経ずに消費者に提供できる朝市、有機栽培農業に取り組む農家が増えてきています。

静原産の野菜は、市内の有料料亭やホテルで提供されて注目を集めています。大量生産・大量消費・大量廃棄とは一線を画した農業がなされています。

しかし、問題点も多数抱えています。獣害問題、耕作が放置されている田畑の増加、若者の農業離れ等々…。

最後に、「生きることは、食べることである」ということを、もう一度考えてみて下さい。

静原昔のことば

静原には、昔、地域独自のことばがありましたが、今はほとんど使われていません。若い人たちにとっては不思議なことかもしれませんが、ほんの少し覚えるだけでも歴史が見えてくるかもしれません。

オカアがニワのハシリでコロモンを切ってる
●お母さんが、土間の台所で漬物を切っています

テショにサイ、モツタモ
●小皿におかずを入れてちょうだい

もっとスダレ
●もっと後ろに下がらない

正月にホンビキセンタモレ
●お正月にはお年玉を下さいね

タモウ・タモレ／してタモウ
●もう／ください／してください

ワレ、大事なもんはソラに置いてや
●あなた、大切なものは棚の高い所に置いておいて

ナタ、いつワサッタンヤ
●あなたはいつどこから来たのですか？

アミダノサカにせんと、アンジョウあそんだってや
●仲間外れにしないで、ちゃんと遊んであげてね

ソチは、いつモンデクル
●あなたはいつ帰ってくるんですか？

あした、キテタモカ
●明日来て下さい

ワレ、シクタレモン(シガング)やね
●あなたは胡虫やね

8月	7月	6月	5月	4月	3月	2月	二十四節気
処暑	立秋	大暑	小暑	夏至	芒種	小満	立夏
立秋	大暑	小暑	夏至	芒種	小満	立夏	穀雨
立秋	大暑	小暑	夏至	芒種	小満	立夏	清明
立秋	大暑	小暑	夏至	芒種	小満	立夏	春分
立秋	大暑	小暑	夏至	芒種	小満	立夏	啓蟄
立秋	大暑	小暑	夏至	芒種	小満	立夏	雨水
立秋	大暑	小暑	夏至	芒種	小満	立夏	立春

静原の伝統行事

花祭り 四月八日
四月八日に阿弥陀寺で行われるお釈迦様の誕生日を祝うお祭り。子供たちがきれいに着飾って集落の中を一周し、そのあとお寺でお経を唱えて誕生仏の像(甘茶)をそそぎます。

鳥帽子儀 四月第八日(日曜)
その歴史は鎌倉時代までさかのぼり、元は成人を迎える長男その年に数え年十七歳になる男子の元服式として四月十日に行われていました。四半世紀くらい前までは、長男がいる家では親戚中が集まり、盛大に祝っていましたが、一時、途絶えてしまいましたが、数年前より復活し、現在はその年に数え年十八歳になる男子が対象で、式では謡を披露します。

春季礼祭 五月三日
静原で一番盛大に行われるお祭りで、わらしに白帷子姿の男性によって静原神社から下ノ宮(天皇社)までを神輿を担いで練り歩きます。女の子(小学校五年)による御幸持ちが彩を添えます。また、子どもたちが祭りを盛り上げてくれます。米粉で作った、食紅で彩った様々な形の御供は、祭りが終わった次の日におさがりとして各町内に配られます。

田の虫送り 七月十四日
稲の害虫を村はずれまで追却する呪いの行事で、現在では小学生による鉦と太鼓に合わせて松明行列が、町内を練り歩きます。夜道を行く松明の光が幻想的です。

静原伝承太鼓
静原の伝統行事で演奏される鉦と太鼓で、「祭り太鼓」「田の虫送り」「雨乞い」の三つの調子で演奏されます。十数年前から静原小学校児童により演奏されており、太鼓を習得した高学年児童が低学年

十二支の語源

十二支は草木の発生・繁茂・成熟・伏蔵の過程を表す。また、方位や時の特性も示す。

しん	み	こ	し	しん	ほ	いん
申	未	午	巳	辰	卯	寅
● 旧暦七月。果実が成熟し固くなる。(うめく)	● 旧暦六月。果実が成熟し滋味を生じる。(あじ)	● 旧暦五月。草木の繁茂が少し衰える。(つきあたる)	● 旧暦四月。草木が繁茂の極限に到達する。(やむ)	● 旧暦三月。草木の形が整って活力が旺盛になる。(ふるう)	● 旧暦二月。草木が地面を覆う。(おおう)	● 旧暦一月。草木が発生する状態。(うごく)